

番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
-60	2022/4/25	Zumwalt Destroyers' 155mm AGSs' Removal Fates Undetermined	Zumwalt級駆逐艦の155mm先進砲を撤去する運命は未決定である	Naval News 2022/4/25	 米海軍がZumwalt級DDGに装備している先進砲システムを弾薬庫ごと撤去し、代わりに極超音速ミサイル用のVLSを装備する議論に関する記事です。毎度ながら巨費を投じて開発し、うまくいかないと判断すればあっさりやめてしまう「余裕」には敬服します。日本では考えられません。先進砲システムはZumwalt級DDGの最大のウリだったはずですが・・・	佐々木司
-61	2022/5/5	Warship Moskva was Blind to Ukrainian Missile Attack, Analysis Shows	分析によれば「モスクワ」はウクライナのミサイル攻撃に盲目だった	USNI News 2022/5/5	 アナリストは写真をよく見えています。	岩崎洋一
-62	2022/4/15	What should the US Navy learn from Moskva's demise?	モスクワの沈没から米海軍はなにを学ぶべきか？	Braking Deffense 2022/4/15	 巡洋艦モスクワが、なぜ簡単に沈んだのかは分からないが、艦船の設計思想、個艦防御性能のたゆまない改善、練度の高い乗員が重要であるという事に尽きると思われる。近年、どこから非対称攻撃を仕掛けられるかが分からないだけに、確りした艦船建造が求められるように思う。	清水隆
-63	2022/5/4	From concept to reality – the next generation of naval subsea technologies	コンセプトから現実へー次世代の海軍水中技術	NAVY LOOKOUT 2022/5/4	  ウクライナの戦いでは、トルコ製UAVバイラクタル TB2の跳梁を許したロシア軍は、陸上でも海上でも、多大な被害を受けている模様です。このように無人機技術は、各種戦闘様相を一変させ得るものであることが、今般明確になったと思います。これは、水中のUUVに至っても同様の傾向と言えましょう。攻撃能力はUAVのそれに比肩することは難しいとしても、近い将来、潜水艦を補完する機能を、相当な範囲で実用化し得ると予想できます。ただし、大気に接することができるビークルと大きく異なる点としては、通信能力に大きな制約があることが挙げられます。これは、昨年ご紹介した記事に詳しいのですが、進歩著しい水中通信での技術、規格等の最新情報に注意する必要があります。これは、最新技術を手にする目的ばかりではなく、同盟国間の相互運用性及び通信秘匿の確保に、大きく関わるからです。また、本記事では、性能機能の維持・向上に、COTS品、オープンスタンダードの重要性が改めて強調されています。引き続き、英海軍の水中技術の開発状況について、把握に努めていきたいと思えます。	本山泰之
-64	2022/5/11	The littoral combat ship's latest problem: Class-wide structural defects leading to hull cracks	沿海域戦闘艦の最新問題: 同型艦全体に関する船殻亀裂による構造欠陥	Navy Times 2022/5/11	 Freedom型LCSが多くの欠陥を抱えて早期除籍が決定したばかりですが、今度はIndependence型LCSに船体亀裂問題が露呈したようです。同型艦の半数近くに船体亀裂が見つかり、荒天航行時に亀裂が伝搬する恐れがあるので運用制限をかけているようです。まったくもってLCSは欠陥艦であることが明らかになりました。一体米海軍はどうするのでしょうか・・・	佐々木司
-65	1998/1/1	УБИИЦЫ АВИАНОСЦЕ В	ウビーツィー・アヴィアノースィツ(空母キラー)	アレクサンドル・セルゲイビッチ・パヴロフ ヤクーツク 1998	  巡洋艦「モスクワ」の沈没原因がいろいろとされていますが、ネット上にあつたロシア人艦艇技術専門家と思しき人物による「スラヴァ」級巡洋艦のロシア語解説記事(1998年投稿?)です。 https://coollib.com/b/140750-aleksandr-sergeevich-pavlov-pro-flot-ubiysyi-avianostsev/read ロシア艦艇の1970～1990年代の設計思想を垣間見ることができます。(もしこれが本物であればの話。)設計上、気が付いた箇所にアンダーラインを付けました。武器関係は専門外で、あまり詳しくはありません。49ページの長い文章ですが、興味のある方はご笑覧ください。	岩崎洋一

番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
-66	2022/5/11	How The Russian Navy Is Losing Dominance: The Curse Of Snake Island	ロシア海軍はどのようにして支配を失ったのか: Snake島の呪い	Naval News 2022/5/11	 ロシア巡洋艦モスクワが沈没し、黒海におけるロシアの防空能力が大きく低下したことにより、ウクライナ軍のドローンによる反撃が容易になったようです。これによってロシアの大型揚陸艦が黒海を自由に航行できなくなっています。開戦当初はオデーサにロシアの揚陸部隊が大挙上陸するという噂がありました。実現は難しいようです。	佐々木司
-67	2022/5/17	The Moskva's last moments: Audio recording reveals crew frantically calling for help from Putin's sinking flagship and saying 'communication with bridge is cut' as sirens blare	Moskva最期の時: 録音された音声により、乗員が夢中になって沈みつつあるプーチンの旗艦の救助を求め、サイレンが鳴り響く中、「艦橋での通信が切断する」と叫んでいる	Daily Mail 2022/5/17	 ロシア巡洋艦モスクワが沈没直前に、艦橋乗員が無線で近傍のタグボートに対して必死に救助を求めている音声ウクライナ軍によって公開されました。艦内警報が鳴り響く中、切迫した通話が聞こえます。Youtubeで”Moskva crewman calls for help after being hit by Ukrainian missiles”と入力して検索すると通信音声を聞くことができます。	佐々木司
-68	2022/5/11	Great Wall of Naval Targets Discovered in Chinese Desert	中国の砂漠で発見された標的の長城	USNI News 2022/5/11	 中国が新たな標的を砂漠に構築しています。停泊中の動かない艦船と岸壁を模した標的。艦の中央部をピンポイントで破壊したような痕跡が見られ、高い命中精度を持っているように思われますが、あるいは中国によるフェイクかもしれません。	岩崎洋一
-69	2022/5/19	Russian Hypersonic Missiles Underperforming in Ukraine Conflict, NORTHCOM Says	ウクライナ紛争でのロシア極超音速ミサイル性能は良くなかった、ノースコムは言う	USNI News 2022/5/19	 米国は、ウクライナ紛争でロシアが使用した超音速ミサイル能力は低いと判断したようだ。しかし、インド太平洋でのミサイル防衛では、グライディングフェーズでの迎撃態勢の構築に予算を費やす。宇宙や艦船のセンサーが益々重要になります。	清水隆
-70	2022/5/13	Navy's Cancellation of Littoral Combat Ship ASW Mission Package Triggers Nunn-McCurdy Breach	海軍のLCSのASWミッション・パッケージのキャンセルはナン・マカーディ違反の引き金に	USNI News 2022/5/13	 ナン・マカーディ法は、プログラム取得単価(PAUC:開発・調達・建造の総コストを調達ユニット数で割ったもの)または調達単価(PUC:総調達コストを調達ユニット数で割ったもの)が、現在の基準より15%以上、または当初の基準より30%以上増加した場合には、議会に報告することを義務付けている法律で、数字がそれぞれ25%、50%に達すれば、開発計画そのもののキャンセルを米議会が要請できるというものです。海軍はLCS向けの対潜ミッション・モジュールをキャンセルしてフリーダム級の全艦退役を決心していますが、その分他のミッション・モジュールのユニット数が減少して、上の数字が増加し、法律違反になったただだと主張しています。	岩崎洋一
-71	2022/5/19	Navy says it will lose millions by not committing to 10 destroyers in upcoming contract	海軍は、今後の建造で駆逐艦10隻の予算が確定できなければ数百万ドルの損失を生じる、と述べている	Defense News 2022/5/19	  米国下院議会における艦船建造予算の議論についての記事である。将来艦船建造で予算を確保する部分と確定しないオプションがある。オプションは予算が確定していないため、受注造船所はまとめ買いができず、割高になる。海軍としては建造したいが予算があれば、と議会の後押しを期待しているように見える。しかし、建造造船所にとっては、労働力やスキル維持のために遣り繰りが大変。インガルス造船所の副社長のことは、「海軍の長期造船計画と5年間の予算計画が有るにもかかわらず。」と言われている。米国事情も日本に似ているが、防衛基盤について議会が議論してくれるところが羨ましい。ただし、実績のあるDDG51は良いが、新型艦の複数艦一括契約は不具合のフィードバックができないため、欠陥艦の大量建造につながるので注意が必要である。艦船の寿命は永く時代の変化は早いので、著しく偏った船を造るよりも、拡張性ある艦船建造が求められるのかもしれない。	清水隆

番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
-72	2022/5/23	Denmark Sending Ukraine Anti-Ship Harpoon Missiles To Take on Russian Ships in Black Sea	デンマークは黒海のロシア艦に対抗するため、ウクライナに対艦ハーブーンミサイルを送る	USNI News 2022/5/23	 ハーブーンも対艦だけでなく、いろいろな機能が付与されています。長射程とはありますが……。劇的に戦況が変わるかどうかは疑問です。	岩崎洋一
-73	2021/Autumn	Seoul's Misguided Desire for a Nuclear Submarine James Campbell Naval Sea Systems Command	ソウルの原子力潜水艦への誤った願望	Volume 74 Number 4 Autumn 2021 Naval War College Review	 ウクライナ戦以降、「暴○膺懲」に続く、「欧州情勢ハ複雑怪奇也」、「バスに乗り遅れるな」などの言葉が浮かび、かつての国際状況を見ているように感じます。「歴史は繰り返す」とばかり、いずれ更に大きな戦いにならないか、不安に思う次第です。一方で、極東のことへの関心が希薄になりかねない気も致します。そして、隣人がどのようなことを考えているか、注意を払っているでしょうか？本論文は、原潜の担当者ではないものの、NAVSEAという米政権側の現役職員が執筆し、公開したものです。従いまして、大筋において、米政権の意思・意向を示す内容として、捉えてよいと考えます。本論文は内容としては、執拗なまでに韓国の原潜不要論を展開していますが、道すがら、とても広範かつ丁寧に、ASW関連等の技術を説明しています。原子力潜水艦のみならず、大変参考になる文献と思います。	本山泰之
-74	2022/5/26	Navy Could Transfer Decommissioned Littoral Combat Ships to Allies, Says CNO	海軍は除籍したLCSを同盟国に譲渡する可能性があると言	USNI News 2022/5/26	 記事の前半はLCS譲渡の話、後半は新型FFGの話です。まさか、日本に引き取れとは言っていないと思いますが……。6ページ目以降は、読者からのコメントです。	岩崎洋一
-75	2022/5/25	ECOsubsea's Hull-Cleaning Robot Used By The French Navy	ECOsubseaの船体清掃ロボットがフランス海軍に使用された	Naval News 2022/5/25	 仏海軍が空母Charles de Gaulleの船底清掃に水中ロボットを試験的に用いて良好な成果を得ているようです。メーカーによると船底塗料に影響を及ぼさず、1時間当たり3000㎡清掃できるそうです。本当にそうなら海上自衛隊でも試用できないでしょうか(該当業者が日本に対応していれば、の話ですが)。	佐々木司